

発話冒頭で用いられる「ってゆうか」の特徴

傳研究室 20L1068M 伊東雄ノ介

1. はじめに

今日の日常会話において、特に若者の間の会話で「ってゆうか」という表現がよく使われている。実際、『現代用語の基礎知識 2023』では、「ってゆうか」が若者用語の一つとして取り上げられており、「話を切り出すときの意味のない前置き表現」と説明されている。ただ、この「ってゆうか」の用法は、若者用語という言葉が示すように、従来の用法とは異なるものであると考えられる。林（2007）、田辺（2008）によると、「ってゆうか」はもともと「A ってゆうか B」というように主に文中で使用し、「A というよりもむしろ B だ」と言い換えるときに使用されてきた。つまり、これを従来の「ってゆうか」の用法だとすると、若者用語の「ってゆうか」との間では、意味の有無と使用位置（文頭か文中か）に大きな違いがあるといえる。本研究では、「ってゆうか」の使用位置に焦点を当て、若者用語としての「ってゆうか」が日常会話の中でどのような役割として現れるのかを検討した。

2. 分析 1

2.1. 目的

「ってゆうか」の前後の発話行為と発話者に注目し、類似表現として想定した「だけど」との比較を通じて、発話冒頭で使用される「ってゆうか」の特徴を探ることを目的とした。

2.2. 方法

データ

『日本語日常会話コーパス』（CEJC）のうち、文頭で「ってゆうか」と「だけど」の両方を発した参加者 24 名のデータを使用した。「ってゆうか」のデータ数は 29 件、「だけど」のデータ数は 41 件であった。

手続き

アノテーションソフト ELAN を用いて、「ってゆうか」や「だけど」の先行発話と直後発話を、それぞれ以下に示す 3 つの発話行為に分類した。なお、この分類は後町（2021 卒業論文）を参照した。

- ① 説明：あることに関する情報を述べる行為
- ② 意見：話者の個人的な意見などの思いを述べる行為
- ③ 質問：話者が他の会話参加者に対して質問や疑問を投げかける行為

これらの分類をもとに、「ってゆうか」と「だけど」のそれぞれで、先行発話と直後発話の発話行為別に産出回数を集計した。また、それぞれのデータについて先行発話と直後発話の発話者を記録し、先行発話と直後発話で発話者が一致しているか否かを集計した。

2.3. 結果

データを分類する際、「ってゆうか」を含む会話データと「だけど」を含む会話データでそれぞれ2つずつ、直後発話がないために分類することができなかった。そのため、それぞれ分類前と比べて2データずつ少ない「ってゆうか」27件、「だけど」39件を分析対象として使用した。

「ってゆうか」「だけど」それぞれについて、発話行為ごとに産出回数を集計した結果、表1・2のようになった。まず「だけど」についてみると、先行発話・直後発話とも説明に圧倒的に集中していた。発話の組み合わせで見るとどちらも説明であるものが圧倒的に多く、全体の3分の2を占めた。これと比較すると、「ってゆうか」はさまざまな発話行為に分散していることが分かる。その中でも、先行発話と直後発話のうちどちらか一方は意見であるものが多かった。

続いて「ってゆうか」「だけど」の先行発話と直後発話の関係について、直後発話の発話行為ごとに集計した結果、表3・4のようになった。まず「だけど」についてみると、全39件のうち32件で先行発話と直後発話の発話者が一致していた。特に直後発話の説明であるとき、全25件のうち23件で先行発話者と後続発話者が一致していた。これと比較したとき「ってゆうか」は、直後発話の説明のときに不一致が一致よりも2倍以上多かったものの、全体的に見て発話者の一致・不一致の数に差はほとんど見られなかった。

後続発話	先行発話			合計	後続発話	先行発話			合計
	説明	意見	質問			説明	意見	質問	
説明	1	5	4	10	説明	23	2	0	25
意見	4	7	1	12	意見	6	6	0	12
質問	0	3	2	5	質問	1	1	0	2
合計	5	15	7	27	合計	30	9	0	39

表1 「ってゆうか」の先行発話と後続発話の発話行為別産出回数

表2 「だけど」の先行発話と直後発話の発話行為別産出回数

後続発話	先行発話者	
	一致	不一致
説明	3	7
意見	6	6
質問	3	2
合計	12	15

表3 「ってゆうか」の先行発話と直後発話の発話者の関係

後続発話	先行発話者	
	一致	不一致
説明	23	2
意見	9	3
質問	0	2
合計	32	7

表4 「だけど」の先行発話と直後発話の発話者の関係

2.4. 考察

今回の分析では、発話冒頭で使用される「ってゆうか」の特徴を探るために、前後の発話行為や発話者に注目し、比較対象である「だけど」のものと併せてデータを分類、集計を行った。

まず「だけど」に関して、発話行為は先行発話・後続発話とも説明であるものが圧倒的に多かった。また、発話者に関しては「だけど」の前後でほとんど変わらないということが分かった。これらのことから、「だけど」は一つの事柄について説明している途中で使用されることが示唆された。

これと比較しながら「ってゆうか」の結果を見ていくと、発話行為については若干の偏りがあるものの、先行発話・後続発話ともデータが分散しており、さまざまな発話行為が用いられていたことが分かる。発話者に関しても、一部偏りがあるものの全体的に見て一致・不一致は同程度であった。これらのことから、「だけど」との比較を通じて「ってゆうか」は発話者の入れ替わりを伴う表現であることが示唆された。

3. 分析 2

3.1. 目的

原田（2015）では、「ってゆうか」の用法を、話題調整用法（話題を調整する用法）と発言改正用法（先行発話を受けその先行発話に改正の余地があることを示す用法）の2つに大別できるとした。分析 2 ではこのうち、話題調整用法の「ってゆうか」に注目し、談話内容という観点から発話冒頭で使用される「ってゆうか」の特徴を明らかにすることを目的とした。

3.2. 方法

データ

『日本語日常会話コーパス』（CEJC）のうち、発話冒頭で使用された「ってゆうか」を含む会話データ 202 件を使用した。

手続き

アノテーションソフト ELAN を用い、原田（2015）を参考にデータを発言改正用法と話題調整用法の2つに分類した。その後、話題調整用法に分類されたデータを使用し、村上・熊取谷（1995）の「談話内容から見た連結型」を参考に以下の4つの類型に分類した。なお、この分類は村上・熊取谷（1995）に一部修正を加えたものである。

- ① 新出型：「ってゆうか」の後に先行トピックと全く関係のない話題が続く
- ② 派生型：「ってゆうか」の後に先行トピックと関連した話題が続く
- ③ 再生型：以前言及していた話題が「ってゆうか」の後に後続トピックとして再度現れる
- ④ 維持型：「ってゆうか」の前後で話題が変わらない

3.3. 結果

発話冒頭で使用された「ってゆうか」を含む会話データ 202 件を発言改正用法と話題調整用法に分類した結果、発言改正用法が 113 件、話題調整用法が 89 件であった。その後、話題調整用法に分類

された 89 件のデータを用いて談話内容による分類を行った結果、表 5 のようになった。最も多く分類されたのは派生型で、全体の約 3 分の 2 にあたる 61 件が分類された。続いて多かったのが維持型の 18 件であり、新出型には 6 件、再生型には 4 件分類された。なお、表のカッコ内は「ってゆうか」の前後の発話者について同一か否かを分類した結果であり、「同一/不同」で表しているが、結果としてどの類型においても同一/不同に大きな差は見られなかった。

新出型	派生型	再生型	維持型	合計
6	61	4	18	89
(3/3)	(27/34)	(2/2)	(8/10)	

表 5 談話内容のタイプ別出現回数

3.4. 考察

新出型のような、先行トピックと全く関係のない話題が続く「ってゆうか」の使用頻度が高いと考えていたが、逆に派生型や維持型のように、先行トピックと同じ話題もしくは関連のある話題が続くような「ってゆうか」がほとんどであった。このことから、日常会話において話題調整用法として使用されている「ってゆうか」は、関連した話題との間で使用されることがほとんどであるということが示唆された。

4. 結論

分析 1 では、発話行為と発話者に注目して「だけど」との比較を行ったところ、発話冒頭の「ってゆうか」が発話者の入れ替わりを伴う表現であることが分かった。分析 2 では話題調整用法の「ってゆうか」に注目し、談話内容の観点から分類を行ったが、発話冒頭で使用する「ってゆうか」の直後には先行発話と関連した話題がくることがほとんどである、ということが分かった。また、分析 1・分析 2 を通して、「ってゆうか」の前後の発話者に関しては同一・不同が同程度見られ、発話者についてももともと使用されてきた「ってゆうか」との違いが明らかになった。